

家庭果樹を 楽しもう!

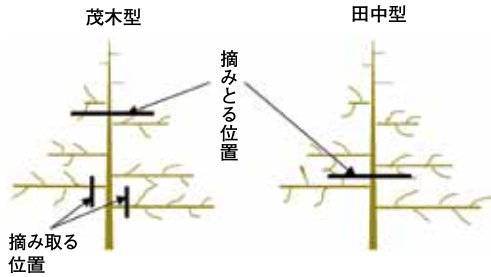
ビワ栽培のポイントと 冬季の病害虫防除

1 ビワ栽培のポイント

ビワは、他の果樹と生育ステージが違い、1月頃に開花し、3月頃に幼果が見えてきます。

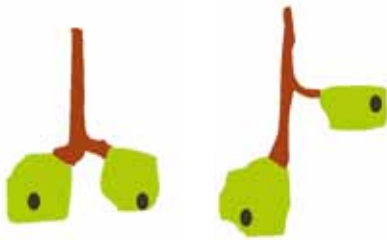
① 摘らい
幼果の肥大を促すことを目的に、

【図1】ビワの摘らい方法



【図2】ビワの摘果

*1果房2~3果にする。



【表】耕種的防除法

防除法	方 法
粗皮削り	主幹・主枝・亜主枝表面のガサガサの粗皮を削り取り、皮の下で越冬している害虫を寒風にあてて殺す。
バンド巻きつけ	害虫は、幹のガサガサの粗皮で越冬するので、主幹にナワ・肥料袋等を巻きつけ、越冬幼虫を集めて捕殺する。
越冬まゆや卵塊の捕殺	ウメやカキに着く、イラガやカイガラムシ類の越冬まゆや卵塊や成虫を集めて、つぶすか焼き捨てる。
害虫被害部の除去	幼虫が侵入している被害枝や葉(虫フンが出ている・葉の食害や枝折れの痕がある)の切除と除去をする。
羅病枝の切除と削り	病斑(しみ・黒斑・枯れ)の枝は病原菌の越冬場所となっているのでせん定の時に切除するか削り取る。
落葉や病害果の除去	病原菌が越冬している落葉や果実を集め、焼却するか、穴に埋めるか、園外へ除去して園をきれいにする。
巻きひげの除去	ブドウの巻きひげは、病原菌が越冬しているのでせん定の時に切除する。

開花前に図1のように「茂木種」は花房の下から3〜4番目、「田中種」は下から1〜2番目の小花柄を残して切り詰めます。

② 摘果
果数制限による肥大の促進を目的に、3月下旬以降に図2のように1果房で近接する果実を2〜3果残します。

③ 袋かけ
果実の外観をきれいにするために、摘果後袋掛けをおこないます。

④ 肥料の施用
他の果樹と比べると生育ステージが異なります。施肥時期は、春肥(2月下旬)、夏肥(6月下旬)、秋肥(9月下旬)となります。速効性の肥料を施用してください。

⑤ 苗木の植え付け
時期は、発芽前の2月中旬〜3

2 効果的な病害虫防除

薬剤を使用しない効果的な防除法として、耕種的防除があります。冬季におこなう防除であり、春先の病害虫の発生が低減できます。表のようにせん定時やせん定後に病原菌の越冬場所である罹病枝の除去や害虫の越冬場所の粗皮削りをおこないます。粗皮削りは、1月から2月の寒風や雪が降る前におこなうと効果的です。

月上旬です。遅いと植え傷みで、植え付け後の生育が悪くなります。

⑥ 整枝・せん定
整枝は杯状形整枝や変則主幹形整枝の低樹高仕立てで、枝を開かせます。せん定は他の果樹より早く、9月中におこないます。